

2. 中国国内オフショア開発拠点から日本の開発サーバーへの接続

事例2-2. 中国国内のオフショア開発拠点から、日本の開発環境への接続

【導入プラン】: IX-NET 通信回線帯域指定サービス

- ・IX-Router PRO (複数端末接続可能な据置型の標準ルーター)を利用
- ・中国オフショア拠点側と日本側にそれぞれにIX-Routerを接続

【業種】: オフショア開発

- ・従業員数: 約30,000名
- ・利用拠点: 中国国内(中国企業)

◆ IX-NET 導入の背景

中国国内のオフショア開発拠点で大規模な開発プロジェクトが急遽スタートすることとなった。約30名の開発エンジニアが日本国内の開発環境(開発サーバー)へ常時オンラインアクセスして開発作業を行うことから、一般のインターネット経由では十分な通信品質を確保できるかどうかが大きな懸念材料となっていた。

開発プロジェクトのスタートまで約1カ月と迫る中、コストと納期の面で国際専用線の選択はあり得ず、インターネットベースでの安定した国際通信環境の構築が必須だった。

◆IX-NET が選ばれた理由

1. 利用開始までのリードタイム:

そもそもが要件を満たす国際通信サービスは他に無く、縁通のIX-NETサービス導入に頼らざるを得ない状況ではあったが、中国側と日本側のネットワーク環境の確認と設計支援には極めてタイトなスケジュール感であったが、事前検証作業を含め約2週間でIX-NET採用に踏み切ることが出来た。

2. 事前に通信品質の確認:

緊急対応の案件であったことから有償検証作業となったが、事前に確たる通信品質が立証できた。また、IX-NET導入後の約1週間で本番利用においてもその通信品質が立証できたことも安心材料となった。

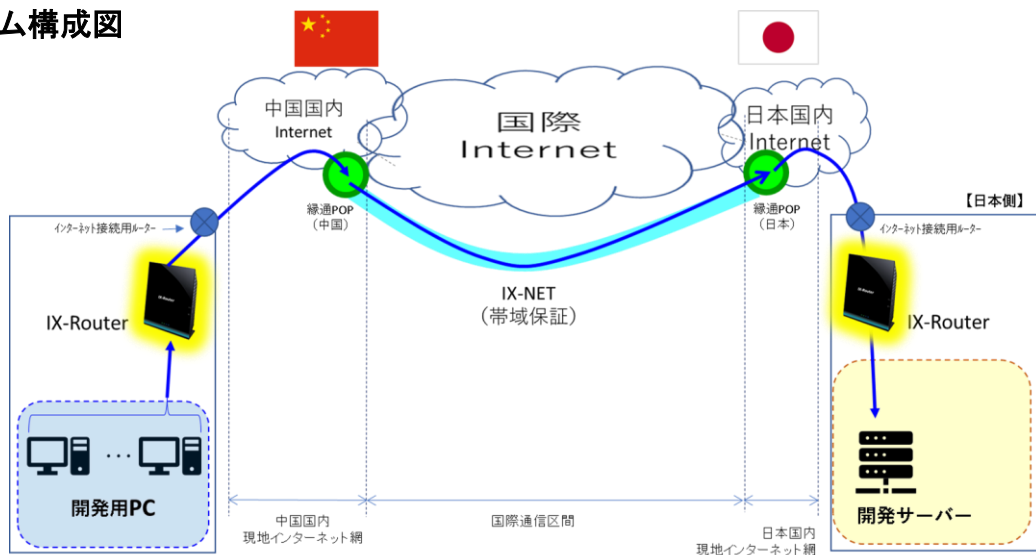
3. 通信環境構築の容易性:

中国側オフィス(上海縁通)による現地での技術支援も満足がいくもので、現地調査、設計、導入、疎通テストまで短時間で確実に行うことができた。品質、サポート体制ともにご納得頂けた。

◆導入の効果

常に安定した通信状態を確保でき、納期遅延のリスクも回避できた。

◆システム構成図



※この事例と関連する他の事例

事例2-1. 中国の複数オフショア開発拠点から、日本のAWS上の開発環境への接続

